

1 学校教育目標

・自ら学び目標をもって努力しよう ・互いに尊重し助け合おう ・困難に耐え心と体を鍛えよう

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身に付けさせる学校 ・心身ともに健やかな生徒を育てる学校 ・生徒、保護者、地域から信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒 ・礼儀や思いやりを大切にし、規律ある行動ができる生徒 ・心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向け、日々、研究・実践に努める教師 ・生徒一人一人を理解し、生徒の健全育成に努める教師 ・教育公務員としての自覚と誇りをもって職務に励む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○学校について

〔よさ〕 日々の教育活動が、落ち着いた雰囲気の中で継続して行われている。

〔課題〕 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」特に「学びに向かう力、人間力等」をさらに高める教育活動を意図的・計画的に推進する。

○生徒について

〔よさ〕 生徒の大多数が、自らの所属する集団をより良い集団にするために考え、行動しようとしている。

〔課題〕 学習や諸活動において、現状に満足せずより高い目標をもって挑戦する姿勢・態度を養う。

○教師について

〔よさ〕 自他の授業改善に向け努力するとともに、学校全体で協力して課題解決しようとする集団である。

〔課題〕 自校やその他の教育課題を明確にし、組織的な解決ができるような共通実践とする。

○保護者・地域について

〔よさ〕 保護者・地域の方は、共に本校の卒業生が多く、学校の教育活動を理解し協力的である。

〔課題〕 生徒のよさ・課題などについて共有し、不測の事態にも持続可能できることを考え、保護者・地域と連携して育てていく体制を見直し進める。

【前年度の成果と課題】

〔成果〕 「授業が分かる」「授業が楽しい」「勉強は大切だ」と感じている生徒が前年度並み、又は増加した。

不登校生徒について、組織的に対応し、関係諸機関との連携を推進することができた。

〔課題〕 学んだ事柄を使って、論理的に物事を考え、表現できる力を身に付けさせる。

不登校生徒について、校内支援委員会を軸に関係諸機関とも連携し、多様化する個々の状況に合わせた支援体制をさらに充実させる。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生徒の健全育成	○	○	○	○	○
3	関係小学校や家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
主体的に学習に取り組む生徒の育成		令和5年度区調査通過率65% 年度末到達度確認テスト正答率60%	区調査通過率66.9% 年度末到達度確認テスト正答率○○%（2月末実施予定）	区調査では、達成できた。				○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「勉強が好き」増加 作戦	全教科	通年	進んで学習に取り組む生徒の育成を目指す ・足立スタンダードに基づいた授業の実践 ・論理的に考え、伝える力を養い、自らの学習を調整し、深い学びをさせる。 ・校内授業研究を全教員が1回以上実施（学習指導案作成） ・教科指導専門員などの活用、OJT組織の活性化による授業改善	・生徒アンケート ・振り返りシート ・単元テスト等による理解度の確認	・「授業が分かる」85%以上 ・「授業が楽しい」80%以上 ・「授業で振り返りをしている」70%以上 ・「分かりやすい説明を心がけている」60%以上	生徒学習アンケート 結果と前年度比 ・「授業が分かる」82.1% 0.7%減少 ・「授業が楽しい」80.6% 5.5%増加 ・「授業で振り返りをしている」51.5% 4.1%減少 ・「分かりやすい説明を心がけている」68.2% 4.0%減少	・4項目中1項目が目標値を超えた。 ・ほぼ、昨年度並みであるが、微量ながら昨年度よりポイントを下げているので、授業改善等教科で取り組んでいく。 ・「勉強は大切だ」95.5%が肯定的回答となり、実践につながる取組をする。	○

2 継続	家庭学習の充実	全生徒	通年	主体的な家庭学習の定着を目指す ・「家庭学習ガイドブック」の活用による家庭学習の取り組み方の指導、保護者会等での家庭への啓発 ・定期考査前の「学習計画表」の作成	・生徒アンケート ・自主学習ノート ・デイリーライフ（生活記録）での確認	・「家庭学習での勉強内容、方法がわかる」70%以上 ・家庭学習1日1時間以上 50%以上 ・提出物 90%以上	生徒学習アンケート結果と前年度比 ・「家庭学習での勉強内容、方法が分かる」51.5% 13.0%減少 ・「家庭学習1日1時間以上」53.8% ・「宿題をやり遂げている」83.1% 0.9%増加	・家庭学習の進め方については、年度当初に限らず、単元ごと又は定期考査で指導、支援を全教科で継続的に進める。 ・個々の生徒への支援が重要となり、対応を丁寧に行う。	○
3 継続	放課後補充教室	全生徒、各教科のつまずきのある生徒及び希望生徒	週3回	未習熟な学習内容の解消 ・必要な学習を行う自学自習（A Iドリル等の活用） ・個別指導によるつまずきの解消（A Iドリル等の活用）	・区学力調査を活用した到達度確認テスト ・定期テスト	・年度末に行う到達度確認テストでの対象生徒の正答率アップ	・年間指導計画どおり、円滑に実施することができた。	・A Iドリルの活用が浸透してきている。 ・つまずきのある生徒への個別指導も計画的に行えている。	◎
4 継続	I C T の活用	全教科及び5教科	通年	分かりやすい授業を行い、生徒個々の学習課題克服に活用 ・デジタル教科書（生徒用） ・Chromebook の活用 ・A Iドリルの活用	授業観察	・各教員が学習の単元で2回以上は活用	・教科の特性や授業内容により活用頻度に差はあるが、よく活用できた。	・Chromebook、A Iドリルなど効果的な活用を促進する研修を実施したこともあり、活用が進んでいる。	◎
5 継続	朝学習朝読書	全生徒	通年	1日の落ち着いたスタート ・基礎的な学習内容のプリント、A Iドリルの活用 ・読書（2週間を年2回） ・実施時期、内容は年間計画に基づく。	・朝学習は回収し確認 ・朝読書には担任も一緒に取り組む。	・全員が朝学習、朝読書に取り組む	・生徒一人一人が目的をよく理解し、朝学習や朝読書に取り組むことで、1日の始まりを落ち着いてきた。	・図書室の整備を行い、P R活動も視覚的に行う工夫により、利用率が向上した。	◎

重点的な取組事項－2		生徒の健全育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が秩序と主体性をもって行動できる学校づくり		生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	関連項目での肯定的回答は 80%以上である。	秩序ある学校生活、主体性を伸ばす活動ができています。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の徹底	TPOに合わせた言動、チャイム着席、あいさつ等ができる落ち着いた学校の実現	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の内発的な動機から、主体的に校内の環境を整える力を育成する。 指導者の考え方から、指導の目的、ねらいを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中や場に応じた言葉遣いをし、学校全体として落ち着いた生活ができた。 生活委員によるあいさつ運動や、授業態度確立週間の取組が行われており、全生徒に浸透している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級委員や生活委員の生徒の規範意識が高まり、自治的な活動を企画、運営する風土が備わってきている。 	◎
主体的に考え、行動できる生徒の育成	生徒アンケートにおいて、生徒の主体性、達成感に関する項目 80%以上	学級、学年など自らが所属する集団を、より良い集団にするために、生徒会活動等を活性化。学校行事、学年行事の育成の機会とする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートでは、「今の学級をよりよい学級にしたい」73.4% 「自分の役割を考え、協力して行動しようとしている」77.3%であり、2項目と若干の減少である。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団をよりよくしていく行動を継続する。 「自分の思いや考えを積極的に話している」68.2%である。 	◎
いじめ、不登校への対策	いじめの根絶を目指すと共に、関係諸機関との連携を図ることで不登校生徒の支援	<ul style="list-style-type: none"> SNS 学校ルール徹底、セーフティ教室など、あらゆる機会に人権を意識した言動を校内で共通実践とする。 校内支援委員会の充実、関係諸機関との連携、WEBQ U の活用により、不登校の未然防止、登校（行動）支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS 六中ルールを生徒主体で浸透する活動などを行った。 いじめアンケートを含め、いじめの事案は迅速に対応した。 不登校対策は、校内の特別支援委員会にて個々のケースに応じ対策を立て、外部人材や機関を活用した支援も進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携して行う。 相談できる雰囲気を作り、いじめ撲滅を目指す。 不登校対応は、成果としてはまだ十分ではなく、さらに粘り強く継続する 	○
道徳教育の推進	各学年で検討した共通の指導案での道徳授業を年2回実施	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育推進教師を中心とした組織体制をもとに、各学年で指導案を検討し、「考え、議論する道徳」を実施する。 道徳授業地区公開講座時の保護者、地域の方の参加を促し、道徳教育の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> Google などのアプリを活用し、視覚的な視点で理解を深める授業を共通実践したことで、教員間でも理解が進められた。 保護者、地域の方の参加が増加し、意見など共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容により、生徒用デジタル教科書の活用を促進する。 	◎

重点的な取組事項－3		関係小学校や家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域から信頼される学校づくり		学校評価アンケートにおける関連項目の肯定的回答 80%以上	関連項目での肯定的回はすべて 85%以上である。	・保護者の参観機会の増加、こまめな情報発信が結果につながった。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携	小学校との合同研修会を年7回実施	・連携校で共通した研究テーマを掲げ、教科別又は柔軟な枠組みで分科会を設定し、授業改善、健全育成に役立つ内容の研修を行う。	・3回予定していた研究授業が予定どおり実施できたこともあり、研究テーマに沿う研修が実施できた。	・9年間の学び方に一貫性をもたせた実践について、連携校での充実のため、さらに再考していく。	◎
家庭との連携、協力	学校評価アンケートにおける関連項目で肯定的回答 80%以上	学校便り、各種便りやホームページによる学校の情報発信、保護者とのきめ細かい連絡をとおして、保護者と教員の信頼関係を強固にする。	学校評価アンケート結果より ・「学校は経営方針や教育活動を保護者会、学校・学校便り等で伝えている」98.5% 0.4%増加 ・「保護者は子供のことで教職員に気軽に相談できる」87.2% 0.9%増加	・便り、HP、H&Sを利用し、こまめに情報発信した。 ・三者面談、定期連絡などから保護者から気軽に相談できる体制をさらに進める。	◎
地域との連携、協力	地域行事に年1回以上参加する生徒、教員が6割以上	・花いっぱい運動、六中マルシェ、地域運動会、荒川ウォーク、住区まつりなどへの参加を呼びかける。 ・地域の方への情報の発信、学校公開をとおして、教育活動への理解を深める。 ・コロナ禍で実施できるものを協力しながら考えていく。	・新たな取り組みとして、本校の特色でもある「あいさつ運動」を地域・保護者の方にも協力を得て生徒及び教員とともに活動することができた。 ・「学校は保護者、地域と連携し、教育活動に取り組んでいる」88.7% 3.6%増加	・次年度は、毎月土曜授業の登校時に、「あいさつ運動」を活性化し、校内外に広げていく。 ・特別支援学級（I組）などの教育活動を通じて、地域との連携した取り組みを広げていく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

【成果】年度末到達度確認テスト（3月実施）において平均正答率は、国語 72.0%、数学 47.0%、英語 51.0%、3科平均は 57.0%であり、目標値 60%に近づけた。生徒の学習に関するアンケートで「学校の授業が分かる」に対し、肯定的回答は 82.1%であり、昨年度と比較し 0.8%減少、「学校の授業は楽しい」は 80.6%で、5.5%増加した。また「勉強は大切だ」と感じている生徒は 95.5%で 0.3%増加しており、昨年度同様大変高く、令和2年度からの4年間、90%以上を保持しており、成果として以下の理由が考えられる。

- 生徒で組織する委員会などの活動で、自発的に挨拶やチャイム着席、学習規律を呼びかける運動などの新規・継続をしている。そのことにより、学習規律の徹底、教室環境の整備、朝学習・放課後補充教室の改善が進み、落ち着いて学習できる環境を整えられたことである。
- 校内研究授業の推進として、1月に3名の教員が授業を行い、「授業観察シート」を活用し、実りある意見交換ができた。国語・数学・英語の教科指導専門員による指導、管理職による授業観察、教科部会などの各教科教員同士の意見交換、実践例の紹介などを行うことで授業力の向上を目指した。また、学習指導要領に沿った指導と学力観について小中連携教育などでも理解を深め、生徒が常に考え、意見交換しながら、知識や技能を得て、それをどのように活用するかという教育活動を学校全体または、連携小学校で進められたことである。

【課題及び解決の方向性】

- 国語 定着度に応じた課題に取り組みさせる。補充教室での個別指導、A Iドリル等の活用を促進する。基礎の復讐と繰り返し練習して覚えるということの特に「漢字の読み、書き」において実施していく。
- 数学 少人数による指導体制の利点を活かし、習熟度に応じたワークシート、教材・タブレット端末などの教具などを効果的に活用し、基礎的な知識・近いにさかのぼった個別指導をしていく。
- 英語 「聞く・話す」ことだけではなく、「読む・書く」ことにも重要とし、新出単語を繰り返し発音することや、単語・単元テストを随時実施することで定着状況を把握し、授業又は補充教室を工夫し、個別指導もしていく。
- 学習の見通しをもたせることや、分かる喜びを多く体験させる。日々の宿題や長期休業中の宿題などについて、学習効果を高める内容であるかを見直し、学ぶことに興味関心をもたせ、自らの学習を意欲的に粘り強く取り組める力を育成する。分かる、できる喜びを体験する活動を増やす。
- 「家庭学習ガイドブック」も活用しながら、毎時の授業の終わりに行う「振り返り」から導き出される「学習内容の理解」を家庭学習でも取り組み、理解の深まりができるよう、継続的な指導をする。

重点的な取組事項－2 生徒の健全育成

【成果】「生徒が秩序と主体性をもって行動できる学校づくり」を目指してきた結果、「学校に行くのが楽しい」85.0%、「今の学級をよりよい学級にしたい」73.4%、「自分の役割を考え、協力して行動しようとしている」77.3%のように、自らの所属する集団をよりよいものにするために考え、行動しようとする生徒が大多数であると言える。これは以下の理由が考えられる。

- 基本的な生活習慣が確立し、落ち着いた学校生活ができている。
- 自発的な生徒会活動、道徳授業・行事などの充実をとおして、自らの所属する集団をよりよくしようとする考え方が浸透し、継続している。
- 授業や学級活動などのあらゆる場面で、互いを認め、励ます場を設定している。
- 週1回開催している校内支援委員会で、いじめ・不登校や特別な支援を要する生徒について、各生徒への支援の方向性を検討している。担任の経験などに関わりなく、それらを共有し組織的に指導することができている。難しい案件については、関係諸機関との連携もS S Wなどを活用することで粘り強く円滑にできている。
- 別室登校やその他の関係機関と、週1回又は月1回の報告書を基に生徒への支援状況を把握し、窓口になる教員との連携を構築している。

【課題及び解決の方向性】「日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話している」68.2%から、人間関係を上手につくり、思いや考えを伝え、さらにそれを調整し、進める力を身に付けさせる必要がある。年間を通じた心身の気力・体力がなく、無気力や学力不振などの不登校生徒が増加傾向である。慢性的に、体調不良を訴える生徒もいるので、この解決のために、以下のことに取り組む。

- 学級や学校への不適応傾向のある生徒をいち早く発見し、要因となっているものを探り、支援の方向性を共通理解し、組織的に行っていく。
- 自力解決する力も備えていくため、個々の状況に応じた支援を校内委員会で確認し、必要に応じて教育相談関係の人員や関係諸機関と連携する。

重点的な取組事項－3 関係小学校や家庭・地域との連携

【成果】保護者・地域から信頼される学校作りを目指してきた結果、保護者、地域の方による学校評価アンケートでは、平均すると14項目ですべて86%以上、7項目で90%以上の高い評価をいただいた。制限のある教育活動であったにも関わらず、教育活動へのご理解ご協力をいただけたと考える。これは以下の理由によると考える。

- 学校だより、学年だより、保健だよりなどやホームページ・C4th Home&Schoolをとおして、学校の情報を細かく発信した。また、行事では観客の制限を無くしたこともあり、生徒の活動の様子を見てもらう機会が増加した。それにより、学校がどのような教育方針で教育活動を行っているのか、生徒がどのような活動をしているのかを理解していただいた。
- 年間2回の三者面談の実施により、各家庭と情報の共有ができています。さらに、担任を中心とした学年の教員が必要に応じてこまめに連絡をとることで、保護者と学校が協力して生徒の健全育成に取り組めた。
- 小中連携の活動は、3回の研究授業を計画どおり実施することができた。それにより、授業の振り返りや9年間の学び方に一貫性をもたせる共通実践について研究を進めることができ、実りある研修が定着した。

【課題及び解決の方向性】

地域との活動では、誰もが参加しやすく実施可能なものへの見直し、実施を実現させていきたい。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

通常の教育活動が戻り、コロナ禍で培った知識と経験を活かしつつ新たな視点で精選し、「生徒の笑顔・達成感」を念頭に教育活動を進めてきました。生徒の成長には豊かな経験が重要になりますが、本校の教職員は生徒の様子を常に把握し、効果的な実践をすることで着実に成果は挙げられました。その取り組みにより、生徒は真面目に学校生活に向かい、高みを目指し、仲間と協力しながら充実感を味わうことができたと思います。しかし、生徒を取り巻く環境は日ごとに変化していきます。現代社会は変化が速く、先を見通すことが難しい時代です。その中をたくましく生き抜く生徒たちには、自ら課題を見つけ、自ら解決していく力が求められます。「何をどのようにして、どれくらい学び、それをどう使っていくのか、それを誰と行うのか」という意識をもたせ、行動させることが重要です。我々教職員は常にそれを念頭に置き、教育活動を意図的かつ計画的に進めることが最重要課題であり、本校の共通した実践としていきます。「人生100年時代」とも言われています。未来ある生徒たちのため、学ぶことに魅力が湧く学校づくりを進めてまいります。引き続き保護者・地域の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- 指導熱心な教員と真面目に取り組む生徒によって、基礎学力が定着し、年々結果も向上し維持している。また、授業中や日々の学校生活の中で、考える場面・話し合う場面・発表する場面を意図的に取り入れている。校内研修や教科指導専門員の指導助言を受けるなど授業改善を進めている。
- Google、AIドリルなど、学習に効果のあるツールを活用し、分かりやすい授業の工夫を行っている。
- 特別支援学級を設置し、共に学校生活を送ることで、共生社会への理解を深めることができています。